

北川の清流戻る？

延岡

延岡市北川町を流れる北川で2011年10月から濁りが断続的に続いている。原因は上流にある北川ダム（大分県佐伯市宇目町）の工事のために水位を下げる際、ダム湖にたまっていった泥が流れ出るため。アユやホタルの保全活動も活発な清流とあって、住民からは生態系への悪影響を懸念する声も上がっている。

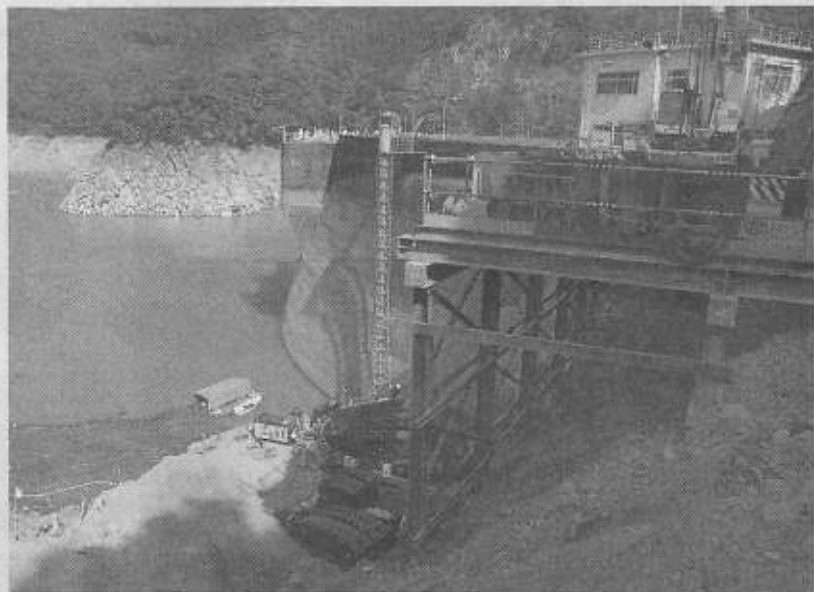
北川ダムは洪水調節と発電利用のため、大分県企業局が1962（昭和37）年に建設。同局によると、ホタルの餌になるカワニナは濁りに弱く、ホタルにも影響が出る可能性があるという。

住民によると、濁りが出るのは北川ダムから延岡市北川町総合支所付近。ホタル保全活動を続ける市民団体「北川やっぴみる会」の早瀬純一郎会長は「橋の上でも川底の石が見えたが、黄色く濁って見えない。川シジミが減り、カワニナの死骸が増えた気がする」と話す。北川漁協の長瀬「三組合長は「アユが減るのは」と危惧する。

高崎大農学部助教授（魚類学）によると、工期はアユが産卵し、稚魚となる時期。濁りで生存率が落ち、餌のけい藻が育ちにくくなる恐れがあるという。また、元琉球大教授でルミナス・ヒムカ水生生物研究

ダム工事で断続的濁り

は11年4月に本県河川課、同10月に延岡市北川町総合支所と地元漁協に説明した。しかし、地元住民にはなく、濁りが問題化した12年3月、国や西県、住民



維持流量放流設備を新設するため、通常より水位を下げて工事を行っている北川ダム。住民によると、雨が降ると濁りが激しくなるという＝大分県佐伯市宇目町・北川ダム

住民生態系への影響懸念

について北川流域防災会議で住民の要望を受ける形で報告。工事発注前に説明があれば、濁りの対策や軽減策も考えられたのでは」との不満が出された。同局は「アユの産卵時期を避けて工期をずらすなど、地元の要望はできる限り対処させても前説明をきちんと行うべきだ」としている。濁りの長期化については国、県、延岡市と効果的な対策を考えていきたい」と話している。

山口所長は「流域住民への事が必要ではないか」と訴えている。